

スコアシート		実施設計段階				全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>			<b>3.1</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.6</b>	0.15			<b>3.6</b>
1.1 室内騒音レベル	—	<b>3.0</b>	0.40			
1.2 遮音	T-2の性能を確保している。	<b>4.2</b>	0.40			
1  開口部遮音性能	—	5.0	0.60			
2  界壁遮音性能	—	3.0	0.40			
3  界床遮音性能(軽量衝撃源)	—	1.0	-			
4  界床遮音性能(重量衝撃源)	—	3.0	-			
1.3 吸音	床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音板	<b>4.0</b>	0.20			
<b>2 溫熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35			<b>3.0</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50			
1  室温	—	3.0	0.38			
2  外皮性能	—	3.0	0.25			
3  ゾーン別制御性	—	3.0	0.38			
2.2 湿度制御	—	<b>3.0</b>	0.20			
2.3 空調方式	—	3.0	0.30			
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.4</b>	0.25			<b>2.4</b>
3.1 昼光利用		<b>1.8</b>	0.30			
1  昼光率	—	1.0	0.60			
2  方位別開口	—	-	-			
3  昼光利用設備	—	3.0	0.40			
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30			
1  昼光制御	—	3.0	1.00			
3.3 照度	—	<b>2.0</b>	0.15			
3.4 照明制御	—	3.0	0.25			
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.9</b>	0.25			<b>3.9</b>
4.1 発生源対策	F☆☆☆☆の建築材料をほぼ全面的に採用している	<b>4.0</b>	0.50			
1  化学汚染物質	—	4.0	1.00			
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30			
1  換気量	—	3.0	0.33			
2  自然換気性能	—	3.0	0.33			
3  取り入れ外気への配慮	—	3.0	0.33			
4.3 運用管理		<b>5.0</b>	0.20			
1  CO <sub>2</sub> の監視	—	-	-			
2  喫煙の制御	敷地全域で禁煙されている。	5.0	1.00			
<b>Q2 サービス性能</b>		—	<b>0.30</b>			<b>3.6</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.7</b>	0.40			<b>3.7</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>2.6</b>	0.40			
1  広さ・収納性	1人当たりの執務スペース:9.31m <sup>2</sup>	4.0	0.33			
2  高度情報通信設備対応	—	1.0	0.33			
3  バリアフリー計画	—	3.0	0.33			
1.2 心理性・快適性		<b>4.3</b>	0.30			
1  広さ感・景観	事務所の天井高さを2.8mとしている	4.0	0.33			
2  リフレッシュスペース	6%以上のリフレッシュスペース+自動販売機等の設置	5.0	0.33			
3  内装計画	コンセプトに沿って内装を計画している。	4.0	0.33			
1.3 維持管理		<b>4.5</b>	0.30			
1  維持管理に配慮した設計	維持管理に配慮した仕上げ材等を採用します。	5.0	0.50			
2  維持管理用機能の確保	維持管理機能を確保するための計画を行っている。	4.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.2</b>	0.30			<b>3.2</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50			
1  耐震性(建物のこわれにくさ)	—	3.0	0.80			
2  免震・制震・制振性能	—	3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.8</b>	0.30			
1  躯体材料の耐用年数	—	3.0	0.20			
2  外壁仕上げ材の補修必要間隔	—	3.0	0.20			
3  主要内装仕上げ材の更新必要間隔	床:タイルカーペット、壁:EP塗装、天井:岩綿吸音板	5.0	0.10			
4  空調換気ダクトの更新必要間隔	屋外露出ダクトにガルバリウム鋼板(排煙ダクト)を採用	5.0	0.10			
5  空調・給排水配管の更新必要間隔	給水VLP(B)、排水VP(B)、消化SGP(C)、Eは不使用。	5.0	0.20			
6  主要設備機器の更新必要間隔	—	3.0	0.20			
2.4 信頼性		<b>3.2</b>	0.20			
1  空調・換気設備	サーバー室に空調設備のバックアップを行っている。	4.0	0.20			
2  給排水・衛生設備	—	3.0	0.20			
3  電気設備	—	3.0	0.20			
4  機械・配管支持方法	—	3.0	0.20			
5  通信・情報設備	—	3.0	0.20			

3 対応性・更新性	3.1 空間のゆとり	階高3.9m以上	4.2	0.30	-	-	3.8
	1 階高のゆとり	-	5.0	0.60	-	-	
	2 空間の形状・自由さ	-	3.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり	床荷重: 4900N/m <sup>2</sup>	4.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性	-	3.4	0.40	-	-	
	1 空調配管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
	2 給排水管の更新性	-	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)		3.0	0.10	-	-	-	3.3
1 生物環境の保全と創出	外構緑化指数は、75.89%としている。	4.0	0.30	-	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮	-	3.0	0.30	-	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	-	3.0	0.50	-	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性	-	-	-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー	-	-	0.40	-	-	-	3.0
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI=0.79	5.0	0.20	-	-	-	5.0
2 自然エネルギー利用	-	3.0	0.10	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化	-	2.3	0.50	-	-	-	2.3
集合住宅以外の評価	-	2.3	1.00	-	-	-	
集合住宅の評価	-	-	-	-	-	-	
4 効率的運用	-	3.0	0.20	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価	-	3.0	1.00	-	-	-	
4.1 モニタリング	-	3.0	0.50	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-	3.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価	-	-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング	-	-	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制	-	-	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル	-	-	0.30	-	-	-	3.5
1 水資源保護	-	3.4	0.20	-	-	-	3.4
1.1 節水	自動水栓、節水型便器+擬音装置付を用いている。	4.0	0.40	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用	-	3.0	0.60	-	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無	-	3.0	0.70	-	-	-	
2 雜排水等利用システム導入の有無	-	3.0	0.30	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減	-	3.4	0.60	-	-	-	3.4
2.1 材料使用量の削減	-	3.0	0.11	-	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用	-	3.0	0.22	-	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材	-	-	-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	壁と仕上材が容易に分別可能となっている。OAフロアも採用している。	5.0	0.22	-	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避	-	3.9	0.20	-	-	-	3.9
3.1 有害物質を含まない材料の使用	有害物質を含まない材料を2つ採用予定	4.0	0.30	-	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避	-	3.9	0.70	-	-	-	
1 消火剤	-	-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)	ODP=0かつGWP=10以下の発泡剤を用いた断熱材等を使用。	4.8	0.50	-	-	-	
3 冷媒	-	3.0	0.50	-	-	-	
LR3 敷地外環境	-	-	0.30	-	-	-	3.4
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO <sub>2</sub> 排出率=80%	3.7	0.33	-	-	-	3.7
2 地域環境への配慮	-	3.5	0.33	-	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止	燃焼機器を使用しておらず、大気汚染を全く発生しない	5.0	0.25	-	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善	-	3.0	0.50	-	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-	
1 雨水排水負荷低減	行政指導は無いが、基本蓄雨高100mmを満たしている。	5.0	0.25	-	-	-	
2 汚水処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-	
3 交通負荷抑制	-	1.0	0.25	-	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	-	3.0	0.25	-	-	-	
3 周辺環境への配慮	-	3.1	0.33	-	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止	-	3.0	0.40	-	-	-	
1 騒音	-	3.0	0.50	-	-	-	
2 振動	-	-	-	-	-	-	
3 悪臭	-	3.0	0.50	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制	-	3.0	0.40	-	-	-	
1 風害の抑制	-	3.0	0.70	-	-	-	
2 砂塵の抑制	-	1.0	-	-	-	-	
3 日照阻害の抑制	-	3.0	0.30	-	-	-	
3.3 光害の抑制	屋外広告物照明を行っていない	3.7	0.20	-	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	-	4.0	0.70	-	-	-	
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	-	3.0	0.30	-	-	-	

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	3.0	2.0	○		○	○	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	9.0		○	○	-	○	-	○	○	○	○	-	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	7.0		-	○	○			○	-	○		○	○	○	-
2.4.1 空調・換気設備	2.0		-	-	○	○	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	2.0	2.0	○	-	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-							
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	10.0		2.0	-	3.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	-	-	1.0	1.0	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	11.0		-	-	2.0	3.0	2.0	1.0	1.0	2.0					
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雜排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-										
2.3 軀体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	2.0		○	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	2.0														
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	6.0		-	1.0	-	-	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	-			
2.3.3 交通負荷抑制	-		-	-	-	-	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	-	1.0	1.0		-	-						
3.2.2 砂塵の抑制	-		-	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

**主な指標****Q1 室内環境**

## 2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.6	窓の日射熱取得率(η)	0.5	
U値(W/m <sup>2</sup> K)	5.1	屋根	0.5	
住戸部分	外壁	0.9	床	-
窓システムU値	-	外皮UA値	-	

## 3.1.1 昼光率

## 4.2.2 自然換気性能

**Q2 サービス性能**

## 1.1.1 広さ・収納性

## 1.1.2 高度情報通信設備対応

## 1.2.1 広さ感・景観

## 1.2.2 リフレッシュスペース

## 2.2.1 軀体材料の耐用年数

## 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

## 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

## 2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

## 3.1.1 階高のゆとり

## 3.1.2 空間の形状・自由さ

## 3.2 荷重のゆとり

**Q3 室外環境(敷地内)**

## 1 生物資源の保全と創出

## 3.2 敷地内温熱環境の向上

**LR1 エネルギー**

## 1 建物外皮の熱負荷抑制

## 2 自然エネルギー利用

## 3 設備システムの高効率化

## 非住宅部分

## 集合住宅の評価

**LR2 資源・マテリアル**

## 1.2.1 雨水利用システム導入の有無

## 2.4 軀体材料以外におけるリサイクル材の使用

## 2.5 持続可能な森林から産出された木材

## 3.2.1 消火剤

## 3.2.2 発泡剤(断熱材等)

## 3.2.3 冷媒

**LR3 敷地外環境**

## 2.2 温熱環境悪化の改善

執務スペース	1.881.45m <sup>2</sup> /200人=9.31m <sup>2</sup> /人	病床	.0m <sup>2</sup> /床	シングル	.0m <sup>2</sup> ツイン	.0m <sup>2</sup>
コンセント容量	20.0 VA/m <sup>2</sup>					
天井高	2.8 m					
リフレッシュスペース	6.3%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	0 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	4 m					
壁長さ比率	39.6%					
床荷重	4900 N/m <sup>2</sup>					

外構緑化指標	76%	建物緑化指標	2%
空地率	34%	水平投影面積率	0%

地表面対策面積率	25%	舗装面積率	8%
----------	-----	-------	----

BPI/BPI <sub>m</sub>	0.79	断熱等性能等級	対象外 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年 m <sup>2</sup>	採光を満たす教室数	0.0% 採光を満たす住戸数 0.0%
		通風を満たす教室数	0.0% 通風を満たす住戸数 0.0%

太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW
BEI/BEIm	再エネ有	0.73	無	0.73	オフサブ再エネ有

一次エネ削減率	再エネ有	無
---------	------	---

雨水利用率	0.0%
特定調達品目	-
エコマーク商品	-
自治体指定の特定品目等	-
使用比率	